

ラグビーを
安全に
楽しもう!

ミニラグビーの大会に 必要な3つの視点



LET'S RUGBY!



JAPAN RUGBY
FOOTBALL UNION

ミニラグビーの大会に必要な3つの視点

✓ 選手にとって安心安全な環境が準備されていること

選手が安心／安全にプレーができるように、コーチや保護者、チーム関係者が知識や情報を正しく理解しましょう。



✓ 選手がラグビーを楽しみ、成長につながること

子どもが日頃の活動に対する成果を出せるように、「成功より成長」を優先して、ポジティブな学びが得られる機会をつくりましょう。



✓ 選手のプレー機会が確保されていること

大会や試合を通して、参加する選手が可能な限り、全選手に多くのプレー機会を提供できるよう調整することが求められます。

一方で、選手のコンディションや身体的発達に配慮し、大きな負荷がかからないように注意をしましょう。



ミニラグビーの大会に必要な3つの視点

について詳しくご紹介します。

はじめに

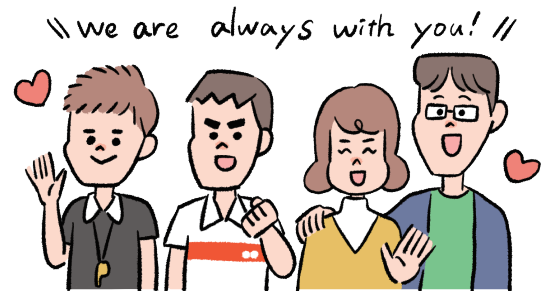
ミニラグビー大会の開催について

日本ラグビーフットボール協会普及育成委員会では、中期戦略計画の中にもあります「より安心安全にプレーを続けられる環境を整える」為、小学生（ミニラグビー）の地域大会を拡充し、子どもたちの交流の機会を増やすことを目的に、都道府県協会及びチームに対して調査を実施しました。

調査結果からは、ミニラグビーの大会を開催する・参加するにあたって重要なものとして「安全性」「選手のプレー機会（プレー時間）」「選手同士の交流の機会」の3つに多くの回答をいただきました。日本ラグビーフットボール協会では関係者と協議し、「ラグビーを安全に楽しんでもらう」という考えを大切にして「ミニラグビー大会に必要な3つの視点」をまとめました。

1. 選手にとって安心安全な環境が準備されていること

選手にとって安心安全な環境が準備されていることは、普段の練習の場はもちろん、大会やイベントにおいても最優先されます。選手が安心安全にプレーができるように、コーチや保護者、チーム関係者が知識や情報を正しく理解しましょう。



セーフガーディング

暴力や虐待、ハラスメントをすべてのラグビーにかかわる場面から排除し、障がいの有無、人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的な意見、出身、経済レベルなどの理由による、いかなる種類の差別に反対し、基本的人権、スポーツを楽しむ権利を守らなければならないと考え、ラグビーに関係するすべての団体、協会、チームが、主体性を持って取り組むことが必須となります。

1. JRFU セーフガーディング基本方針

1. ラグビーに関わる全ての方に健全な成長の機会を提供する
2. あらゆる暴力・暴言を排除する
3. あらゆる差別を排除する
4. あらゆるハラスメントを排除する
5. 健康リスク/環境リスクに対処する



1. 選手にとって安心安全な環境が準備されていること

安全対策

コンタクトスポーツであるラグビー競技においては外傷・障害を予防し、プレイヤーの安全を確保することは常に最重要課題です。「player welfare」を第一に考え、指導者、選手、レフリー、セーフティアシスタント、保護者等、多くの皆様方と共に安全にラグビーを楽しめる環境を整えましょう。

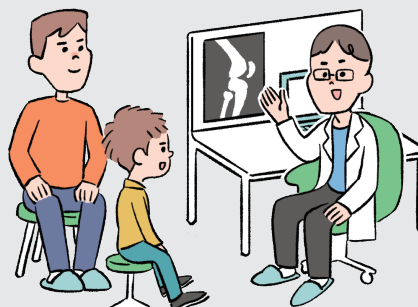
日本ラグビーフットボール協会においても従来より各委員会が連携し、歩調を合わせ取り組んできた問題です。

特に脳振盪については、適切な対応が求められますので、あらためて「脳振盪が疑われる場合の対応」を確認してください。

※脳振盪の疑いがある選手は、ただちに競技や練習をやめさせてください。そして、もし症状が消えていたとしても、医師に診てもらうまでは運動に復帰させてはいけません。(ラグビー外傷・障害対応マニュアルより)

小学生の場合の注意点

年齢が低いほど自分の病態を示すことができず、対応が後手に回ることがあります。練習後も普段と比べてなにか気になることがある場合は、すぐに病院で受診をしてください。



- ・ 診察した医師が処方した薬以外は、例え痛み止めでも親の勝手な判断で薬を飲ませないこと。
- ・ 受傷後少なくとも24時間は休息をとるようにしますが、学校で勉強に集中できないようなら1-2日は休んで様子を見ることも理にかなっています。但しこれ以上長引くとなると普通ではありません。
(SCAT5、childSCAT5より)

1. 選手にとって安心安全な環境が準備されていること

選手の服装



- ・ 競技規則（本則） 第4条「プレイヤーの服装」
- ・ U12 ミニラグビー競技規則

**①安全を最優先にする目的で
マウスガードの装着をすることが望ましい。**

推奨

ただし骨格の発育段階であり、永久歯に生え変わっていない乳歯がある場合や、歯科矯正などを行っている場合もあるので、専門医に相談することをお勧めします。また歯型を取っての作成は、金銭的な問題もあるのでプレイヤー・保護者の判断に委ねています。

**②プレイヤーは試合中に
ヘッドギヤを着用しなければならない。**

義務

**③シューズは一体成型ゴム底のもの
ただし鋭い形状の部分や隆起している部分がないものであること
スタッドの取り替えられるものは禁止する。**

禁止

※ラグビーゴーグルの周知

<https://bigfront.co.jp/items/rugbygoggles/>



1. 選手にとって安心安全な環境が準備されていること

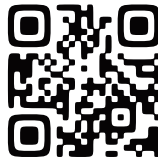
引用元

JRFU セーフガーディング
推進ガイド



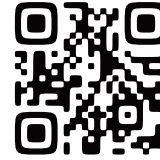
<https://bit.ly/3uG6BYW>

WR Safeguarding Policy



<https://bit.ly/48tg4Aq>

プレーヤーウェルフェア



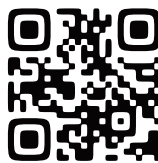
<https://bit.ly/49zFa1l>

安全対策



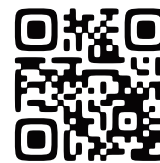
<https://bit.ly/3wmHs5P>

安全・インテグリティ
推進講習会



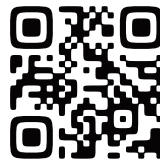
<https://bit.ly/49knnM8>

セーフティーアシスタント
認定講習会



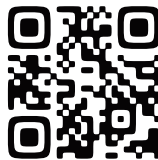
<https://bit.ly/42Q7fQ5>

ラグビー外傷・障害対応
マニュアル



<https://bit.ly/30SqQcu>

熱中症の予防



<https://bit.ly/30RmVwE>

食中毒の予防



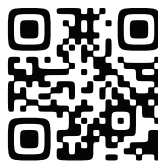
<https://bit.ly/3wquPXw>

感染症の予防



<https://bit.ly/3SNks2L>

雷に関する注意



<https://bit.ly/42PkeSb>

脳振盪が
疑われる場合の対応



<https://bit.ly/3las3ls>

競技規則



<https://bit.ly/4bP6b2X>



「脳振盪の疑いがある選手は、直ちに競技や練習をやめさせて下さい。そして、もし症状が消えていたとしても、医師に診てもらうまでは運動に復帰させてはいけません。」
ラグビー外傷・障害対応マニュアル

2. 選手がラグビーを楽しみ、成長につながる事

子どもが日頃の活動に対する成果を出せるように、「成功より成長」を優先して、ポジティブな学びが得られる機会をつくりましょう。

ラグビー憲章にある「品位・情熱・結束・規律・尊重」の5つの言葉は、選手、指導者、保護者、トレーナー、メディカル、レフリー、スタッフ、関係者など、ラグビーに関わる全ての人々に共有する価値観であり、日々のラグビー活動において、実践および体現して、子どもたちの成長をサポートしましょう。



- ・勝利だけではなく、より良い選手（人間）になるために努力することが成功につながるという考え方を前提に、個人の成長の機会としてラグビー環境を活用することを推奨する。
- ・子どもたちが長くラグビーを楽しめることにつなげられる指導や環境が重要になる。
- ・対戦相手やマッチオフィシャル、観客に対するリスペクト／コーチ、保護者、応援者のマナー。
- ・プレー機会（学びの機会）が増えるように、地域レベルでの大会を増やしていく。
- ・行き過ぎた勝利至上主義に歯止めをかける。

2. 選手がラグビーを楽しみ、成長につながること

コーチ/レフリー

コーチ

すべての子どもたちが、安全で安心できる環境の中で自分のチカラを最大限に発揮できるよう、適切な学びの環境を整えることが重要。

- ・優れたラグビー選手を育成するだけでなく、優れた人間を育てる
- ・最低限の安全対策に関する知識や指導者としての基本が求められる（無資格で指導は行わない）
- ・プレーヤーウェルフェアやセーフゲーディング
- ・試合の結果（試合に勝つこと）よりプレーヤーの成長が重要

レフリー

子どもたちが「安全に」「楽しく」「いつまでも」ラグビーができる環境をつくる

- ・危険なプレーには厳しく対応する
- ・プレーヤーに全力で取り組む重要性を伝える
- ・「ボールの争奪」「プレーの継続」を適切に行わせる
- ・コミュニケーションは、ほめる、認める
- ・主催者、チーム、保護者はレフリーの判断を尊重する
- ・レフリー自身は、自己研鑽に取り組む
- ・ミニラグビーレフリー（MRR）は、12歳以下のラグビー（ミニラグビー）の試合を担当する



全国規模の大会に求められること

※ミニラグビーにおける大会調査より（2023年）



- ・日頃の活動の成果を発表することができる場として
- ・小学生年代から夢や目標となる大会として
- ・全国から参加する選手や指導者等との交流の場として
- ・全国規模の大会に出場することでよい経験が得られる

※全国1位を決めることは求められていない

2. 選手がラグビーを楽しみ、成長につながること

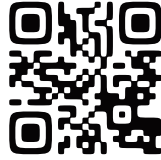
引用元

ラグビー憲章



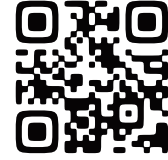
<https://bit.ly/3SOe2W3>

コーチ資格の取得



<https://bit.ly/3SLY1Qj>

スタートコーチ
無資格でのコーチングをしない



<https://bit.ly/3lf0hul>

World Rugby
Coaching Children



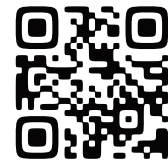
<https://bit.ly/48pHxTG>

レフリーのための情報



<https://bit.ly/30Qggmx>

スタートレフリー



<https://bit.ly/300pSy4>

レフリングのガイドライン



<https://bit.ly/3TaUz3i>

スクラムジャパン助成金



<https://bit.ly/42MirNM>



3. 選手のプレー機会が確保されていること



大会や試合を通して、参加する選手が可能な限り、全選手に多くのプレー機会を提供できるよう調整することが求められます。

一方で、選手のコンディションや身体的発達に配慮し、大きな負荷がかからないように注意をしましょう。

U12 ミニラグビーのプレー時間

体力や安全性への配慮から、試合時間や1日の試合総時間は学年により決められています。

参加チーム数やスケジュール、コンディション等を考え、参加する選手が可能な限り、全選手に多くのプレー機会が提供できるよう調整することが求められます。



試合時間

低学年（小学1・2年生 U8 ※タグラグビー）

5分ハーフ程度 ※子どもの実態に応じた適切な時間を設定する

中学年（小学3・4年生：U10）

15分ハーフ以内 ※1日の試合総時間は原則50分以内

高学年（小学5・6年生：U12）

20分ハーフ以内 ※1日の試合総時間は原則60分以内

トーナメントで引き分けの場合でも、試合を延長してはならない。

3. 選手のプレー機会が確保されていること

多様なゲームスタイル

WR (World Rugby) より、選手の安全性や快適なラグビー環境づくりのために新しい競技規則「Game On Global」が示されました。

GAME ON GLOBAL
コミュニティ競技規則バリエーション

| | | | |
|---|----------|---|---------|
|  x 10-15 | プレイヤーの人数 |  | スクラム |
|  80 | 試合時間 |  | ラインアウト |
|  | 交代要員 |  | キック |
|  | タックルの高さ |  | 体重別階級分け |
|  | ボールのサイズ |  | ピッチの寸法 |



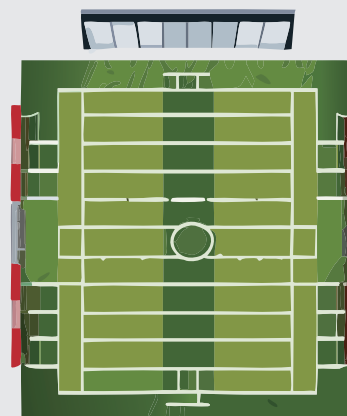
ラグビーの試合で得る体験の質向上と参加者の安全性を高め、多くの選手がその特性や能力によって、出場機会を得ることができる。協会は、競技規則の条項を状況や目的に応じて選択することができる。
例) コンタクトの変更、体重によるバンド別の試合、タックルの高さを低くするなど

Game On Global

- ・人数：7人制、10人制、12人制、15人制など
- ・ピッチサイズ：ハーフ、フルなど

FORALL ミニ・ラグビーフレンドリーマッチ

- ・1試合にエントリー選手全員を出すこととする。



3. 選手のプレー機会が確保されていること

引用元

競技規則



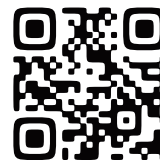
<https://bit.ly/3uwebFy>

GAME ON GLOBAL



<https://bit.ly/3ORNAK2>

事例紹介
サイレントリーグ（滋賀県）



<https://bit.ly/3uHbUat>